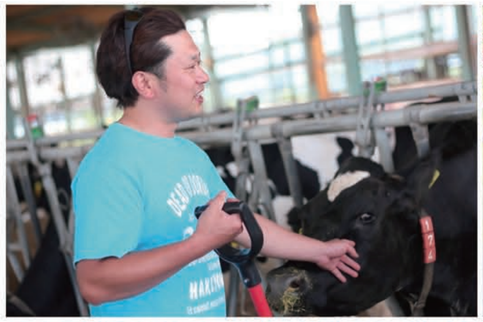
巻頭特集

泥んこナンバーワン＝D-1も始めました！

大中地区 若手農家たちの取り組み

農家としての本分を発揮しながら、地域起こしにも精を出す大中地区の農家たち。地域の個性を大切にしながらD-1グランプリなど多彩な活動を打ち出しています。

D-1の告知がされた牧草ロールの前で。若手農家仲間で大中町を盛り上げています！



右／水田に薬剤をまくスタイルでキメる徳田さん。農家は大変と語るが、笑顔が絶えない　中／芽かきをする弓削田さん。5月は種抜き処理も真っ盛りだとか。収穫まで気が抜けない　左／「乳牛が暑さにへばらないように気が抜けない」と話す鈴木さん。なつく乳牛に優しく触れる

ひょんな思いつきで始まったご当地イベント

「最初は、遊びで始めたんです。それが、あれよあれよと有名になっちゃいましてね…」。野太い声でこう語ってくれたのは、大中町で米や野菜作りをしている東和矢さん。「溝切り機に乗ってレースしたらおもしろいのとちゃうか」――D-1（泥んこナンバーワン）グランプリの歴史は、こんなひと言で幕を開けました。レースに使用される溝切り機は、本来は水田に水切り用の直線的な排水路を掘るための手押しのマシンで、時速2～3㎞で進むもの。これにまたがり、足りないスピードとコーナリングは人力で補って、130mの田を1周するガテンレース。大の大人が必死に泥しぶきを上げながら走る姿と、巨大な爆音のわりに思うように進まないギャップが大ヒット。テレビやラジオなど数々のメディアに取り上げられたこともあり、全国にD-1と大中町の名を轟かせました。

現在では、豪華近江牛を優勝商品に据えて、各農家の若手たちに加え、各地の猛者が馳せ参じるまでに発展。「本当は出たいよ」と乳牛農家の鈴木豊さんが本音をこぼしたり、「最初は安全靴のような重い靴で出場して、泥に沈んで大変だった」とブドウ農家の弓削田信基さんが思い出を語ってくれたりと、それぞれに思い入れはありますが、スタッフとして大会を切り盛りするために、近年はほとんどレースに参加できないのだとか。泥んこ宝探しや長靴飛ばしなど、レースの他にも多彩な泥んこメニューが新設されたとあって、運営サイドに回らざるをえないのが現状です。しかし、この〝農家の遊び〟、D-1が生まれた背景には、若手農家たちの強い絆と、農業に対する情熱がありました。

農家のつながりで困難を克服し新たな農業を目指す

現在、この名物イベントにかかわる実行委員会のメンバーは総勢27人、農家70軒ほど。ここ大中町で、若手メンバーそれぞれが家業の農業を継ぐなどして、大規模農業に取り組んでいます。

畜産経営と、ブドウ栽培に取り組む、親元就農4年目の弓削田さんは、ブドウ品種と栽培方法の相性を見極めながら、ブドウの房に細かく手を入れていました。「大中町は、玄関を出て2分で畑に出られる最高の立地。次世代に、この大規模農業ができる恵まれた環境と、元気な大中を残したい」と夢を語ってくれました。

しかし、実際の農家の現場は甘いものでないこともまた事実です。200頭ほどの乳牛の世話に勤しむ鈴木豊さんは、牛の体調管理の難しさを教えてくれました。「親父世代と変わって、今はチップの入ったバンドを牛の足につけて、発情状態や搾った乳の量などをコンピューターで管理できるようになりました」。こうした面での負担は減ったものの、特に、乳房が腫れる病気・乳房炎はすぐに治療しなくてはならないため、それが一番大変なのだとか。会社員を辞めて家業の農家を継いだ徳田大地さんは、米や大根、キャベツなどを生産していますが、「去年は台風でキャベツがほぼ全滅で…」と天候面での厳しさを語ってくれました。

ただ、こうした困難を乗り越えられるのが大中町の若手の強み。東さんはこの秘訣を、「みんな仲がいいからです」と明かします。「僕らが目指すのは楽しい農業。でも、この楽しさが生まれるのは、同級生もひと世代上の人も、みんな仲良くしてくれるから。良いものを作りたいと思ったら、この『仲の良さ』がすべてに通じる大事な要素です」。

米や大根、乳牛やブドウなどさまざまなものが生産される大中町ですが、今も昔と変わらぬ田園風景が保たれているのは、こうした若手の奮起があってこそ。「ぜひ大中町に来て、『ちょっと畑を見せてよ』と土や泥に触れていってほしいなと思います」と語る若手たちからは、大中町を盛り立てる心意気が感じられました。

作業している俺らの背中を見に来てほしいですね

東FARM代表
東 和矢さん（34）
第1回から参戦し、現在はD-1実行委員会でも中心的な役割を担う、リーダー的存在

農家
徳田 大地さん（26）
脱サラして親元に戻り、就農2年目。ハニカミ王子を思わせる控えめスマイルが持ち味

乳牛農家
鈴木 豊さん（36）
「自分は口ベタ」とは言うが、乳牛を語らせたら止まらない。親元酪農を継いだ2代目

畜産&ブドウ農家
弓削田 信基さん（29）
畜産のほかにも、味の秀逸さで人気上昇中のシャインマスカットの栽培を手がける

1.爆音を上げる溝切り機を操る。動力に加えて走りながらのレースのため、全身泥んこに　2.D-1で使われる溝切り機。その名は仮面ライダーならぬ「田面ライダー」　3.女性陣も負けていない。昨年の大会では決勝まで勝ち残ったつわものもいるそうだ　4.見てください、この充実感あふれる姿を！　5.泥田に投げ込まれたら…あとは想像通り

文/成清 陽　写真/D-1実行委員会、矢野祥太　デザイン/chica